

## はじめに

「たくさんの本を読んだのに、なんであまり覚えていないのだろう」  
「セオリーは勉強したのに、なぜ実際の仕事では使えないのだろう」

ロジカルシンキング、フレームワーク、クリエイティブシンキングなどビジネスで必要とされる思考力を鍛えるための本は、世の中にたくさん存在します。

でも、それらの本を読んでも「いまひとつ身についている気がしない」いう声をよく聞くのはなぜでしょう？

なぜなら、それらの本を読むだけでは、足りないものがあるからです。

それは、学んだことを実際にアウトプットして使うノウハウです。本で考え方を学んでも、それを自分で表現して使うことができなければ、いつまでたってもただの知識の枠を超えられません。「なぜか身についている気がしない」というふうに感じるのは、アウトプットするための技術が不足しているからなのです。

図は考えを実際にアウトプットする（＝書いて表現する）という技術を鍛えるものです。図を使えるようになると、入ってきた情報を自分なりに整理し、表現する力がつきます。これまで、ただ情報として頭を通りすぎていたものを、自分の中で消化し、血肉とすることができるようになります。

私はJPモルガン、ポストンコンサルティン ググループといった、外資系企業でコンサルタントとしてキャリアを積んできました。こういった外資系の会社では、顧客への提案はもちろん、社内資料でも形、色、構図などさまざまな図を取り入れて作成します。なぜならそのような図を使うことで、相手にわかりやすく伝えられるだけでなく、自分の考えも整理され、問題解決力が高まるからです。

しかし、私も最初から上手く図を使いこなし、アウトプットができていたわけではありません。実は、最初は図の使い方が全くわからず、なかなか資料が作れないダメコンサルタントでした。しかし、それではまずいと思い、私は、過去のコンサルタントが作った何

百というプレゼンテーション資料を読み、勉強したのです。そして、自分自身もこれまで約10000枚のプレゼン資料を作成することで、誰にでも伝わるわかりやすい図の使い方を習得しました。そして、図の使い方がわかるようになると、資料がスラスラ書けるようになるだけでなく、不思議と頭が整理され、仕事の評価も上がるようになったのです。

私は今、ミシュランの星付きレストランを運営する会社で店舗開発や企画をしています。自分の夢だった分野とは言え、コンサルタント時代とは全く異なる環境に、業界知識も、経験もない状態で飛び込んだため、私自身、実際どこまで役に立っているのか正直不安に思っていました。

飲食業界では、現場が主役です。いくら正論でも、現場が納得し、自ら動かなければ結果を出すことはできません。しかし、そんな中でも役に立ったのは、アウトプットすることで相手を巻き込み一緒に考えることのできる図の技術だったのです。

本書でお伝えするのは、そういう実戦の場で使える技術です。図を書く手法や資料の作り方だけではありません。図を使うことによってどのようなメリットがあるのか、そし

て、いつ、どのような時に使うのかという具体的なノウハウを述べていきます。

図の技術は、複雑なことをシンプルに、難しいことを簡単にして問題解決に活かすための技術です。また同時に、相手と一緒に考えを作りあげていくための道具です。そのため、社会人としてキャリアをスタートしたばかりの人から、部下を持ちマネジメントをしている方々まで、すべての人に役に立つスキルなのです。

この本を読み終わったときに、「よし、これからは図を使って、もっと仕事を楽にしよう」というふうに思っていただけだと願っています。そして、ぜひ具体的なビジネスの場面で図を活用してみてください。必ず、あなたを見る周りの人の目が変わります。

それでは、あなたの仕事の仕方を劇的に変える、図の世界へご案内します。